

## ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

## ・ 設置の趣旨および目的等について

栄養科学部は、平成22年度おおむね設置計画に沿って教育活動を展開できた。

開設2年目を迎えた今年度は、東日本大震災で被災した学生への配慮及び交通手段復旧の遅れによりオリエンテーションや授業開始が2週間遅れてスタートした。今後の授業回復措置として、夏期休業を短縮して授業時間を確保する学事日程を組み、さらに土曜日等の補講の実施も予定している。

新入生には、震災の影響で予定を変更し学内（昨年は宿泊研修）で2日間のオリエンテーションを実施した。オリエンテーションでは、管理栄養士になるまでの過程やその役割などのセミナーを行い、学生一人ひとりの目的意識を高めることができた。新入生の目的意識は高く、今後の成長が期待される。

教員とのコミュニケーションを通して、一人ひとりの学生が新たな環境に適応し、自発的に自分の将来に展望を持ち、目的意識を持って学生生活を送れるように支援することを目的に「コミュニケーションサークル（CC）」を昨年度から立ち上げて取り組んできた。具体的には、1人の教員が6～7人の学生を担当し、個別に面談して、相談に乗った。今年度は1人の教員が12～13人の学生を担当する。平成22年度は教員1人あたり平均7回の面談を実施した。CCについて学生にアンケートを実施し、8割の学生が評価すると回答している。また、CCの効果として、2年生が管理栄養士への目標がより具体的なものになって表れてきている。

## ・ 入学者の受け入れについて

入学試験は、推薦入学試験1回、センター利用入学試験2回、一般入学試験2回を計画どおり実施した。志願者は275人となり昨年度より70人増加した。入学者は87人で、定員を超えた。成績が拮抗したため、入学定員よりやや多い結果となった。施設設備等は十分で受け入れに支障はない。次年度に向けては、引き続き入学者の確保に努めていくこととしている。

## ・ 教育課程について

管理栄養士養成施設指定申請に係る東北厚生局の指導過程において、専門科目の必修科目として「基礎栄養学実験（1単位）」1科目を追加し、科目内容の充実をはかっている。

その他は計画どおり実施している。

## ・ 教員配置について

教養教育科目において、平成21年度末の文学部兼任教員の急な退職により開講が間に合わなかった科目があった。これについては、平成22年6月文学部において後任者を決定し、「社会学概論」は平成22年後期に開講できた。今年度は、「社会学概論」及び「人間関係論」ともに通常開講した。

開設時における担当者未定の3科目については、いずれも専任教員が担当するため、専任教員採用等設置計画変更書を平成22年6月に提出し、8月に判定可の審査結果を得、すべての担当者が決定した。

しかしながら、専任教員において、平成22年4月に就任した教授1名が、健康上の理由により平成23年4月末をもって退職した。これによりオムニバスの科目を含め5科目が担当者未定となった。科目はいずれも平成24年度以降開設科目である。後任については、公募を行い、専任教員採用等設置計画変更書を平成23年8月に提出する予定で、授業開始に間に合わせることにしたい。

「微生物学」は2年次後期で開講する予定であったが、2年次前期で開講する「食品衛生学」及び「食品衛生学実験」の基礎となる教科であるため、1年次後期で開講することに変更した。また、「微生物学」は「食品衛生学」（オムニバス）との関連が深いことから、「食品衛生学」担当者と同じ複数の担当者により、学生の理解が深まるとの考えからオムニバス方式に変更した。

- ・ 自己点検評価及びFDについて

平成22年4月には新任を含めた栄養科学部の全教員に対して宿泊研修を実施して、設置申請書に記載した教育目標の徹底を図った。

全教員の研究内容について共通認識をもち、教育に反映させることを目的として、各教員の研究発表を8回にわたって実施した。また、次年度の授業改善に資する目的で、22年7月及び23年2月の最終講義終了後にすべての開講科目について、受講生に対してアンケート形式の「授業効果調査」を行った。調査結果は、今年度の授業改善に反映させるほか、学生への公開を行うこととしている。

- ・ 地域貢献について

第30回盛岡大学公開講座を学部開設記念事業として栄養科学部が担当して開催した。総テーマを「Quality—生命・健康・食—」とし、2日間にわたり教員4名が専門分野について講演した。定員60名に対して延べ150名の市民が参加し、好評であった。

岩手県岩手郡滝沢村の活性化事業として、村民の健康維持・増進を図ることを目的に教員11名が村民の健康増進調査を実施した。調査結果を基にして、村内3か所で報告会を開催し、健康増進の意識啓発に寄与した。

- ・ 施設設備について

図書等を含め、計画どおり整備し供用している。

以上、栄養科学部は開設して1年が経過したが、栄養科学部は全体として着実に設置計画を遂行できていると評価している。2年目の志願者が3割増加したことは、地域からも認められてきていることを表している。今後もこのような状況を維持し、設置計画の教育内容を確実に実施するため、自己点検評価、FD活動などの充実を図っていく。